



おいでよ志 みんな大地 ちいきを潤す 清流となつて

第23回全国ボランティアフェスティバルぎふに参加

九月二十七日(土)二十八日(日)に岐阜県岐阜市の長良川国際会議場で社会福祉法人全国社会福祉協議会主催の『第二十三回全国ボランティアフェスティバルぎふ』が開催されました。全国各地から一九〇〇名を超える参加者で、「さわやか」から高原・貞谷が初めて参加しました。

活発な議論と交流を

岐阜大会の飯尾良英実行委員長は「最初は一人の志であつても地域を動かし、地域貢献に繋がっていく事に確信を持って、また東日本大震災・福島原発事故から三年半、被災地をはじめ多くの地域でボランティアが果たした役割と教訓を再確認しましょう。」

皆さんの活発な議論と交流を期待しています」と挨拶がありました。

続いて全国社会福祉協議会の斎藤十郎会長は「この大会で課題に取り組み、また課題を共有し、熱心な意見交換や情報交換をする事によって、ボランティア活動や市民活動の協働の輪が広がり、全国的な活動が進む



第23回
全国ボランティア
フェスティバルぎふ
飯尾良英実行委員長

事を期待しています」と挨拶がありました。

次に塩崎泰久厚生労働大臣の代理の厚生労働省の鈴木俊彦社会援護局長と古田肇岐阜県知事の来賓挨拶とボランティア功労者の厚生労働大臣表彰があり、引き続き記念講演に入りました。

講師に岐阜県白川村の倉嘉宏教育長を迎えて『未来につながる白川びとの財産(たからもの)』と題して話がありました。

『未来の財産』と

『過去の財産』

倉氏は「私達には守り繋がなければならない財産があると思います。」

全国ボランティアフェスティバルとは

全国ボランティアフェスティバルは、昭和五十二年に開催された「全国ボランティアのつどい」にさかのぼります。

その後、平成四年からは全国各地の持ち回りで、開

それは『未来の財産』と『過去の財産』です。

未来の財産とは子供達の事で、共に村を造ってほしいという思いと過去の財産とは先人達が守り通した伝統や文化の事です。

白川村は昭和五十一年九月に重要伝統建物群保存地区として平成七年十二月に白川郷五箇山の集落として世界遺産に登録されました。



切妻合掌造り

白川村には切妻合掌造りが存在しており、大正十三年には三〇〇棟ありましたが、火災等によって現在、七十五棟に減少しています。

切妻合掌造りの多くは白川郷萩町集落にあります。白川郷萩町集落の住民の有志が切妻合掌造りを守る会を結成し、合掌家屋を『売らない』・『貸さない』・『壊

小倉第一病院

中村定敏名誉理事長ご逝去



九月二十七日小倉第一病院の創立者であり、名誉理事長

の中村定敏先生が永眠されました。

今から十七年前「さわやか」小倉事業所を立ち上げる際に、小倉地区でどこに事務所を置くかで当時の北九州市腎友会で話し合いました。

そして中村定敏先生に相談に行ったところ、快く承諾していただき、小倉第一病院の一室を貸していただき、平成九年十二月十五日に開所する事ができました。

病院内でお会いした時はいつもやさしい笑顔といつものスタイルで「さわやか」さんどうですか？と声をかけてくださいました。

患者さんの為、自分の理想とする病院作りの為に力を惜しまず、妥協をしない、患者さんにも職員の方々にも愛情いっぱい接しておられたと伺っております。

今の「さわやか」があるのも先生はじめ小倉第一病院のスタッフの皆様のお陰であることは忘れる事はできません。感謝いたしますと共にご冥福をお祈りいたします。中村先生ありがとうございました。合掌

も『感謝の心』・『敬う心』・『お蔭様だ』と言える心だと考えています。

また『生きる』という事は人に何かしてもらおうこと、『生きていく』という事はそれを返していくことという事ではないかと思えます。

そして私達が、切妻合掌造り等の伝統文化を守る事だけではなくその気持ちを未来の子供達に繋いでいく事が一番大切な事だと思えます」と話されました。(裏面に つづく)

子供を育み

未来のステージへ

平成二十三年に小・中学校一貫教育を実施し、子供達を育み、未来のステージへ送り出していきたいと取り組んでいます。



催現地推進委員会が主体となり、全国ボランティアフェスティバルに発展し、現在に至っています。

みんなで寄れば “文殊の知恵”

「お悩み解決のヒントを私たちの活動から探そう！」

二日目は午前九時より岐阜県ホテルなど四つの会場に分かれて、『支えあい』・『ボランティア・福祉教育』・『防災・減災』・『まちづくり』の四つテーマで二十九の分科会がありました。

今回は、「広がりボランテニアの輪」連絡会議主催の『みんなで寄れば』文殊の知恵”「お悩み解決のヒントを私たちの活動から探そう！」の分科会に参加しました。

コーディネーターの日本福祉大学原田正樹学長補佐は「今回の趣旨は活動をし

次に清流トーク・セッション第一部「『知力』と『地力』の結集による新たな協働」と題して、コーディネーターにルーテル学院大学学事顧問の市川一宏教授、ゲストスピーカーに「のわみ相談所」の三輪憲功代表と秋田県藤里町社会福祉協議会の菊池まゆみ常務理事の話がありました。

その内容としては現在、経済的困窮の広がりや孤独死、ひきこもり等の様々な問題が深刻化しています。これら



分科会の様子

ていく中での問題や悩みを共通し、そこから全国の仲間と共に議論しながら一つでも解決策を探す事です」と話されました。

四つのテーマについて発題者が発表し、その中で関



心のあるテーマについてグループに分かれてワークシヨップを行ないました。「テーマ」
① 新しい仲間やメンバーが入ってこない
② 他団体やグループとの連携やつながりができない
③ 単発の活動にはボランティアが集まるが、継続的に関わる人が少ない

④ メンバー間の活動への温度差ができ、思いや方向性にずれがある
今回はその中からテーマ①とテーマ④に参加しました。各団体やグループの問題や悩みを出し合い、それに対しての解決策や工夫について話し合った後、講師の方からアドバイスをいただき、分科会は終了しました。

な孤立、虐待、自殺、いじめ等があります。私達はこれらを暗い事と捉えずにピンチをチャンスに変え、課題を認識したうえで私達に何が出来るのかを考えていきたいと思っています」と話されました。

最後に飯尾氏は「この大会では、地域の課題に対して地域の力を結集する事を呼び掛けてきました。この大会を機に自分達と地域との関係を見直してほしい、また連携して効果を高めていく事をこれから始めていこうと思っています」と話があり、全大会が終了しました。